

臨床仏教師
養成課程案内

臨床仏教師とは、現代社会の苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する仏教者のことです。花園大学国際禅学研究所及び(一社)アジア南太平洋友好協会では、このたび臨床仏教師養成関西第4期プログラムを開講いたします。本公開講座終了後、さらに専門的に臨床仏教について学ぶ意欲のある方々には、ワークショップや臨床実習(OJT)を受けていただき、審査を経た上で(公財)全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所より臨床仏教師の資格が認定されます。

知る、学ぶ 座学
〈約15時間〉

臨床仏教公開講座において、以下の条件を満たせば座学課程の修了となります。修了者のうち希望者は、ワークショップ課程に進んでいただくことができます。

- 全10回の講座のうち、8回以上の出席
- 全講座終了後にレポートの提出

理解する ワークショップ
〈40時間〉

ワークショップ課程では、現場で活動をするにあたって、対人関係の場面を想定したケアの技法の習得を目指します。傾聴法やカウンセリングなど、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に理解し、実践研修へとつなげていただきます。

- 全10回の講座のうち、8回以上の出席
- 筆記および実技の審査

実践する 実践研修(OJT)
〈100時間以上〉

実践研修(OJT)では、臨床仏教師として活動するにあたり、今後必要な方途を現場で学びながら習得していただきます。研修は、次のような団体・現場を予定しています。

例：病院／養護施設／自立援助ホーム／
介護施設／各種団体(自死遺族支援団体／
生活困窮者支援団体／ひきこもり支援団体など)

お申し込み方法

- ① 予約する
- ② 受講料を振り込む
- ③ 受講証が届く

申込締切: **2026年10月6日(火)**
お申込受付: FAX 075-279-3641(国禅研)
メール rinbutu@hanazono.ac.jp

お申し込みいただきました方には、メールにてご案内を差し上げます。指定のサイトより受講料振込のお手続きをお願いいたします。

振込締切: **10月9日(金)** まで

受講初日前日までに受講証がお手元に届かない場合は、お手数ですが事務局(075-823-0585)までご連絡ください。
※各回の授業の際には受付で受講証をご提示ください。

定員 80名 ※先着順(お早めのお申込をお勧めいたします)

受講料 全10回 一般 **30,000円**
花園大学及び臨黄寺院関係者・全青協会員・学生 **27,000円**

※受講のキャンセル(入金後の受講取り消し) **10月9日(金)** まで
やむを得ない事由で講座の受講ができなくなった場合、所定期日内にご連絡いただいた方に限り、手数料1,000円を差し引いた受講料を返金いたします。なお、所定期日以降の返金はできません。

会場

キャンパスプラザ京都
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939



京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車。徒歩5分。

キリトリ線

【臨床仏教公開講座】お申し込み用FAXフォーム **FAX 075-279-3641**

フリガナ				年齢	才
お名前					
ご住所	〒				
TEL		FAX		E-Mail	
所属	(所属団体名・寺院名・学校名など)			(いずれかに○をおつけください) 一般・花園大学及び臨黄寺院関係者・全青協会員・学生 第1・2・3・4・5・6・7・8・9期受講・初めて	

臨床仏教公開講座

〔臨床仏教師養成関西第4期プログラム 通算第10期〕
花園大学・アジア南太平洋友好協会寄附講座

仏教者は現代社会のなかで
人びとのここに
どのように寄り添うことができるのか

2026 10/13 (火)・2027 3/2 (火) 全10回

会場: キャンパスプラザ京都 (京都府京都市)
受講料: 一般 30,000円 / 花園大学関係者・全青協会員・学生 27,000円
主催: 花園大学国際禅学研究所・(一社)アジア南太平洋友好協会
協力: (公財)全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

臨床仏教師養成 関西第4期プログラム

臨床仏教 公開講座

講座スケジュール

※本講座は臨床仏教師養成プログラム通算第10期となります。

第1講 10/13 (火) 18:00～19:30

ケアが必要な人と ケアする人のことを考える －多様なところに寄り添うために－

内容 病気や認知症などで介護が必要になった人のところの模様。そして、介護にあたるケアラーのところ模様。それぞれの方が置かれている状況を踏まえて、そこから生じる思いや葛藤について考えてみたい。

講師 福富 昌城(花園大学社会福祉学科 教授)

第2講 10/27 (火) 18:00～19:30

教誨師という仕事 －受刑者・死刑囚に向き合うところ－

内容 東京拘置所における死刑囚などへの多年にわたる教誨活動。死を目前にした受刑者のところの変遷を辿りながら、僧侶として、教誨師として彼ら彼女たちに向き合う有り様について紐解いていく。

講師 金嶽 宗信(大徳寺派香林院住職・教誨師)

第3講 11/10 (火) 18:00～19:30

薬物依存者への 寄り添いと支援 －仏教チャプレンの現状と可能性－

内容 チャプレンとは、施設付きの宗教者を意味する。アメリカでの病院付きのチャプレン、日本の刑務所付きのチャプレンとしての具体的な臨床活動を踏まえて、今後の仏教チャプレンとしての可能性を探る。

講師 千石 真理(心身めざめ内観センター 主宰)

第4講 11/24 (火) 18:00～19:30

若者の生きづらさを前に 支援者は何ができるのか

－心理臨床家と仏教者の"違い"が協働を可能にする－

内容 近年の若者に多く見られる生きづらさや対人関係の特徴を、心理臨床の視点から整理する。その上で、心理臨床家と仏教者が支援者として重なる部分と異なる部分について考え、専門性の違いがどのように協働を可能にするのか検討する。

講師 村松 朋子(花園大学臨床心理学科 准教授)

第5講 12/8 (火) 18:00～19:30

「あいまいな喪失」と グリーフケア

－当事者ケアのあり方を考える－

内容 大切な人との死別後は自然な反応として悲嘆反応が現れる。悲しみや罪悪感、怒り、食欲不振といった反応の根底には何があるのか？ また、事故や自死による「あいまいな喪失」における悲嘆についても取り上げ、当事者のケアのあり方について考える。

講師 黒川 雅代子(龍谷大学短期大学部社会福祉学科 教授)

第6講 12/22 (火) 18:00～19:30

子どもたちの 「いのち」を支える

－こころと身体の居場所づくり－

内容 児童虐待防止法の制定以来、虐待を受け児童相談所に通告される子どもたちの数は、増加の一途を辿っている。また、不登校状態にある子どもたちの数も増加している。子どもたちの心身の居場所として何ができるのか？ その可能性と方途について探りたい。

講師 安武 隆信(童楽寺ホーム 代表)

第7講 1/12 (火) 18:00～19:30

ベットサイドで果たすべき 宗教者の使命

－患者や家族のケアのあり方－

内容 医師や看護師とともに「鹿児島緩和ケア・ネットワーク」を立ち上げ、医療チームの一員として終末期の患者やその家族のケアに取り組む。その活動から宗教者が果たすべき使命を考える。

講師 長倉 伯博(国立滋賀医科大学 非常勤講師)

第8講 1/26 (火) 18:00～19:30

「いのちのケア」の 現場から

－僧侶として臨床仏教師として－

内容 日本人の三人に二人が悪性腫瘍・がんに罹患する。臨床仏教師として、患者さんやご家族の「いのちのケア」にあたる医療現場の実際を紹介しつつ、仏教的なケアや看取りのあり方について考えたい。

講師 森脇 宥海(四国がんセンター緩和ケアチーム 臨床仏教師)

第9講 2/9 (火) 18:00～19:30

「聴くことしかできませんが…」 と言わなくてよいために

－生き死にに関わる苦悩を前にして－

内容 自死遺族に寄り添う活動をはじめ、さまざまな臨床現場において僧侶としてののちに寄り添ってきた経験を踏まえ、生き死にに関わる苦悩を前にした際の関わり方と、臨床仏教師に求められる姿勢について考える。

講師 小坂 興道(京都自死・自殺防止センターSotto 理事)

第10講 3/2 (火) 18:00～19:30

臨床なき仏教は 存在しうるのか？

－臨床現場から仏教の本義を考える－

内容 寺離れ、葬式離れ、墓離れ……。なぜここまでに現代人は、寺院や僧侶に背を向けるのだろうか？ 仏教のダルマに基づいた臨床活動を踏まえ、僧侶や寺院の有り様について考えたい。

講師 神 仁(臨床仏教研究所 所長)

私たちが生きる社会

私たちが抱く想い

生・老・病・死の「いま」を知る

「いま」を考える

人びとの「いのち」に
寄り添うために